

## 「行為の意味～青春前期の君たちへ贈る心の詩」

宮沢章二著 ごま書房新社

校長 桑野 啓子

4月5日の第14回入学式の中でも、「校歌手話りレー動画」を見ながら、「ここはわたしたちの箕面（ふるさと）彩都の丘学園～♪」と校歌を歌いました。2024年の今年度は、133名の1年生から9年まで46学級1579名年でスタートします。彩都の丘学園はこれまで同様に～夢・未来に向けて「学ぶ、鍛える、つながる」～ことを目標に、子どもと子どもとのつながり、子どもたちと我々教職員とのつながり、学園と保護者のみなさん地域のみなさんとのつながりをより一層丁寧に育てていきたいです。その結果として、一人ひとりが安心して過ごせる学園でありたいです。

互いにつながるためには、コミュニケーションが大切です。コミュニケーションはまずあいさつから。廊下で子どもたちとあいさつを交わすと元気がでます。今年度もおとなも子どもも①あいさつのあふれる学園でありたいです。②そして人にはそれぞれのもちあじがあり、同じ人はひとりもないということ。どの人も大切なたったひとりの人であることを決して忘れることなく、あたたかい気持ちで互いにつながりあえる学園でありたいです。新学級、新学年でのスタートは、だれにとっても不安や緊張に満ちたものですが、新たなつながりをゆっくりと育ていけるよう、子どもたちと一緒に歩きたいと考えています。

タイトル「行為の意味」の著者宮沢さんは「ジングルベル」の日本語作詞でも知られています。30年間、地元埼玉の中学生のために詩を贈り続けられ、2005年に宮沢さんが亡くなった後、それらの詩が一冊の本にまとめられました。紹介します。

「君たちが歩くとき」（抜粋）

君たちが歩くとき 君たちは一人ではない  
隣にも 前にも 後ろにも  
同じ道を歩く仲間がいる  
互いを支え合う仲間がいる

多感な時期の子どもたちだけではなく、わたしたち大人にも、前を向き未来に向けて歩み続けていく大切さを感じさせることばの数々のように思います。

2024年度も、彩都の丘学園が保護者のみなさん地域のみなさんと互いにつながりあって、子どもたちと一緒に歩み続けていけますよう、引き続きのご支援をどうぞよろしく願いいたします。